



対象 犬・猫	手術時間 90～180 分	入院 3～5 泊	麻酔 全身麻酔
-----------	------------------	-------------	------------

■ どんな手術？

副腎腫瘍に対して腹腔鏡を用いて副腎を摘出する手術です。副腎は大静脈に隣接する難しい部位にあり、精密な手技が必要です。腹腔鏡アプローチは開腹手術に比べて術後の回復が早く、出血量も少ない傾向があります。術前の CT 評価と血圧管理が安全性のカギになります（CT 撮影は専門施設をご案内します）。

■ この手術が必要なとき

- ・副腎性クッシング症候群（副腎腫瘍）
- ・褐色細胞腫（腫瘍が機能的な場合）
- ・副腎腺腫・腺癌（切除が可能な症例）
- ・健康診断などで偶然見つかった副腎腫瘍（一定サイズ以上）

■ 手術の流れ

- ① 術前に降圧薬で血圧を整えます（2 週間以上）
- ② 全身麻酔をかけ、動脈圧をモニタリングします
- ③ 側方または腹側からポートを設置し、気腹します
- ④ カメラで副腎と大静脈を確認します
- ⑤ 副腎周囲の血管を慎重にクリップで止めて切断します
- ⑥ 副腎を袋に収納し、ポートから摘出して縫合します

■ 麻酔について

副腎腫瘍では手術中に血圧が変動しやすいため、術前から降圧薬で血圧を整え、術中も動脈圧をモニタリングします。全身麻酔で行います。手術前に血液検査などで全身状態を確認し、麻酔のリスクを評価したうえで実施します。手術中はモニターで呼吸と循環を継続的に管理します。

■ 入院・退院の目安

術後 3～5 日は血圧・電解質を見ながら集中管理します。

■ 術後のケア

- ・ステロイド補充療法を開始し、徐々に減量します
- ・退院後も定期的なホルモン検査を行います
- ・2～4 週で通常の生活に復帰します

■ 起こりうるリスク・合併症

- ・大出血（大静脈の損傷）：最も重大なリスク
- ・副腎不全（術後にステロイド補充が必要）
- ・血圧の急変（褐色細胞腫で特に注意）
- ・開腹手術への移行

■ よくある質問

Q. なぜ術前に降圧薬を使うのですか？

A. 褐色細胞腫では手術操作で血圧が急上昇することがあります。術前に血圧を安定させることがリスク低減につながります。

Q. 術後にホルモンが不足しますか？

A. 反対側の副腎が正常なら徐々に機能を補います。数週間～数ヶ月ステロイドを補充しながら経過を見ます。

Q. CT は必要ですか？

A. 副腎と大静脈の位置関係の把握は安全な手術に重要です。CT 撮影は当院では行えないため、提携の専門施設でのご受診をご案内します。

■ なつ動物病院での対応について

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください